



R. I. 第2630地区 高山中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT

2010～2011 年度 高山中央 RC 会長テーマ
「心をつくし、力を合わせて」

◆会長 清水 幸平 ◆幹事 大保木 正博 ◆会報委員長 今井 俊治 ◆会報担当 水川 巧

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市花岡町 1-15 丸越商事 4F

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 852 回	49 名	48 名	42 名	—	87.50%
前々回 850 回	49 名	48 名	39 名	3 名	87.50%

<点 鐘> 会長 清水 幸平
<ソング> 奉仕の理想

<本日のゲスト>

国際ロータリー第 2630 地区

ガバナー 桑月 心 様
代表幹事 西野 徹 様
ガバナー補佐 伊藤 松寿 様

<会長の時間> 会長 清水 幸平

本日、ガバナー桑月 心様を始め、地区の役員の皆様方をお迎えし、高山 3RC 合同のガバナー公式訪問例会を開催することができ、たいへん光栄に存じます。本日はいろいろとご指導を宜しくお願いいたします。

さて、来る 10 月 2 日には高山西 RC 主管の濃飛分区分 IM が、続いて 10 月 23 日～24 日には高山 RC がホストクラブの地区大会がそれぞれ開催されます。高山 RC の皆様、また高山西 RC の皆様には、最後の準備にお忙しいことと存じます。それぞれが素晴らしい大会となり盛会のうちに進行されますことを心よりお祈り申し上げます。私たち高山中央 RC もできる限りの協力をさせていただきますので宜しくお願い致します。

さて、会長の時間をいただいて、蝶の話をしていただきます。皆さんはアサギマダラという蝶をご存知でしょうか。日本昆虫学会による国蝶選定の際に、候補に選ばれました。残念ながら国蝶はオオムラサキが選定されました。アサギマダラの成虫は春の北上、秋の南下を繰り返す「渡り」をする蝶として知られています。日本各地で見られますが、越冬できるのは温暖な地域に限られます。しかし、その移動の範囲の全貌はまだ明確でなく、謎になっています。そこでこのアサギマダラの移動の謎を調査しようという仲間が全国各地にいます。高山でもアサギマダラの観察会が 8 月末に高根でありましたので参加してきました。移動の研究は、捕獲した成虫の翅の半透明の部分に捕獲場所・年月日・連絡先などを油性ペンで記入（マーキング）し、放蝶するという方法で個体識別を行います。

このマーキングされた個体が再び捕獲された場所・日時によって、何日で何 km 移動したかを調査します。このような調査により、夏に日本本土で発生したアサギマダラは秋になると南西諸島や台湾まで南下、また繁殖した子孫が春に北上し、日本本土に再び現れるという行動が明らかになりました。中には直線距離で 1,500km 以上移動した個体や、1 日あたり 200km 以上の速さで移動した個体もあります。高山でも過去にマーキングした蝶が、長崎県の五島列島や鹿児島県日置市等で捕獲されています。

こうやってみてみるとアサギマダラは、レイ・クリンギンスミス会長の RI 会長テーマである「地域を育み、大陸をつなぐ」の象徴のような蝶だと思いますが如何でしょうか。

アサギマダラは日本各地の自然の中で育まれて、幼虫から蛹となります。そして羽化し美しい蝶となって空を羽ばたきます。ヒヨドリバナやフジバカマなどの花の蜜を吸いながらふわふわと空を舞い南を目指して日本各地を縦断します。そしてついには南西諸島、台湾にまでたどり着くのです。

自然の世界は、さまざまな生きものを育み、そして命のつながりを持っています。私たちは RI 会長テーマを再確認し今後のクラブ運営に生かしていきたいと思っております。少しこじつけの感はしますが、本年度の RI 会長のテーマに似つかわしい物語ではないかと思いアサギマダラの話をしていただきました。

ご清聴ありがとうございました。



〈高山 3 R C 合同ガバナー公式訪問〉

日 時 平成 22 年 9 月 13 日 (月)
 会 場 ひだホテルプラザ
 3 階「吉祥の間」



【歓迎のことば】

高山ロータリークラブ
 会長 住 吉人 様

本日の 3 クラブ合同ガバナー訪問例会には、私どもから出ております桑月心ガバナー地元でもございます高山の地にお迎えする訳です。

いつもと違いまして、本人にとりましても、私ども高山ロータリークラブといたしましても、どんな歓迎のことばも見当たらず、大変難しいと感じておりますが、来月の 23～24 日と高山で開催されます国際ロータリー第 2630 地区の地区大会が本日お集まりの会員諸兄のご協力の中で、大成功に導かれることが、桑月ガバナーにとっても何よりも、歓迎のしるしだと思っております。桑月ガバナー公式訪問が意義ある例会であることをお願い申しあげ歓迎のことばにはなりません、歓迎のご挨拶とさせていただきます。



【ガバナー卓話】

国際ロータリー第 2630 地区ガバナー

桑月 心 様

こんにちは、只今伊藤ガバナー補佐から紹介がありました通り私たちは、高校 2 年の時はクラスも一緒だったせいか、今日は気楽にお話をさせていただきたいと思っております。

今の RI 国際ロータリーで言われていることは、まず財団未来の夢計画、又は会員の増強問題とか、3 年以内の新会員への研修、そして今年ははっきり目指す第 5 の方針部門として制定された新世代部門があります。

これらに関して現 RI 会長は、これからは各クラブの行う奉仕事業の成果は、より大きく、より良く、より大胆に培ってもらいたいと言っておられます。今月 9 月号のロータリーの友に書いてあるのは、より大きく、より良く、より力強くとなっております。

顕著な例として、今年セミナーで紹介させていただきましたが、特に今の時代 C L P と言いますが、長期計画のことをいうんですね、ところが今の具体的な問題に関しまして、国際ロータリーでは、実は長期計画という単語ではないんです。本来元のことばは、戦略的計画なんです。いろいろ問題があるんだったら、戦略を立てて、戦略を実現させるためには戦術が必要なんだと言っているんです。

私は昨日四日市に行っていましたが、そのパストガバナー伊達先生に、以前そういう指導を受けたんですが、こういう単語は戦略上の成果とか、あるいは戦術面全て、大学でいえば商学部のマーケティング理論に出てくる、しかも全部が軍事用語テクニカルターモをそのまま使っていると言われました。

私はなるほどと思ったのは、実は長期計画という日本語になっていますが、元のことばは、戦略計画だったんですけど、なぜ戦略計画がいつのまにか長期計画に変わったのかといいますと、実はロータリーの国際協議会の同時通訳の日本語通訳は、平和を愛するロータリーとしては、あんまり戦略とか戦術とか軍事用語ばかり用いてはまずいのではないかと思ひ、瞬時に長期計画と軍事面を緩和して訳を変えたのがそのまま私達日本のロータリーに、それが残っているんです。

アメリカやヨーロッパへ行きますと戦略計画といいます。長期的なビジョンとか長期的使命とか、そういういいかたはしますが、言語は戦略的計画なんです。

その中でも私は、会長をさせてもらった時は単年度でした。その単年度とそしてもう一つは 3 年程度の中期計画、そして今はやりの 5 年程度の長期計画、そういういろんな面がありますけども実は、私達は単年度と中期と長期はまったく違ったものであって、たとえば C L P のクラブインザシルプランの一環としてその長期性があるんだと思うんですがそうではないんですね。私は思ったのは、その底の方ではしっかりとロータリー理念は、短期、中期、長期としっかりと繋がっています。

これは一つの例えですが、川の流れを上から眺めていますと、時々泡が立つんですね、泡でも大きな泡もあれば小さな泡もあるんです。又泡が形をとる前になくなっている場合もあるんです。しかしいずれの場合であっても、大きな

泡がはじけて、小さな泡がはじけてその後何が残っているかと言いますと元の川は、どこからともなく流れてきて、どこからともなく流れて行くんです。これは変わらないんです。だから具体的に言いますと泡と元の川は、泡と川とに区別はできます、区別はできるんですけども引き離すことは絶対できないんです。



私達の短期、中期、長期いろんな RI の奉仕の理念、昔の人は奉仕の理想という言葉を使いましたけども、そういうものを実現化するためにいろんな計画を立てて、それを顕現して具現化していく中でいろいろ表現の仕方はあるんですけども、切り離すことは絶対できないんです。

私達のロータリーの奉仕の心、ロータリーの人を大事にするという、それとその結果それに基づいて現れる、いろんなプロジェクトの成果、結果そういうものは区別できても、引き離すことはできません。

底の方ではしっかりと繋がっているという、まずその一点を受け止めて下さい。

元の川をロータリーの奉仕の精神と思って下さい。実は私達の奉仕のプロジェクトとかプログラムとかいろんな奉仕活動もまったくそうなんです、短期的なものとか、中期的なものとか、長期的なものとかいろいろあるんですけども、しかしそれも底の方では川と同じようにしっかりと繋がっています。

今日のこの例会で、そういう所を受け止めて少しでも奉仕活動を通して、奉仕の理念を実現するという方向性を出していただけたらと思います。

ただし一点だけ私達は注意をしなければならないのは、例えば RI でよくいわれるのは、発展途上国のニーズとか、何が必要かとか、そういうことを受け止めて、そしていろいろと活動をする。しかしそのニーズというものは、ある意味では原因なんです、直接原因です。ところが原因だけでは絶対成果は出ません、何が必要かと言いますと、その原因を支えている条件と状況なんです。一つの例で言いますと、仏教でよく使いますけども、種と実です。種というものは直接の原因です、第一原因です。

そして種からそれだけで実は成るかと思うと、そうではないですね、やっぱり水や太陽の光、肥沃な土地そういうものが要なんです。そういういろんな物は、条件・状況と言います、結果又は成果を出すためには、ニーズという名前前で原因をいってもいいんですけども、その原因と状況・

条件の組合せです噛み合わせです、その入組んだ噛み合わせがあって初めて、そこには成果が上がります、結果が出ます

そのところは特に私達は、目を受けさせていただく必要があるんじゃないかと思えます。

100年以上前からいわれていることに、ロータリーははたしてその本質は、個人奉仕なのか、団体奉仕なのか、私達にとって自分達のおおのの仕事ですね、ロータリーの独特の単語でいうなら職業奉仕、そういうものと目に見えるもっと大きい、そして特にアメリカの人達が求めている団体奉仕、はでな結果、宣伝しやすい形、広報しやすいものを、はでな物もあるんですが、しかし私が思うには100年以上前から個人奉仕と団体奉仕という言葉はあったんですけども、今年の規定審議会で取り上げられそしてロータリーの奉仕活動の哲学だと、根源だと、はっきりと何百票以上の差で可決された決議23-34の第一条を確認する決議なんですね、これが通ったというところを見ても世界では、心ある人は私達日本人と同じように受け止めているんじゃないかと思うんです。

決議23-34は皆様の承知のように、社会奉仕派と理論派と呼ばれる人達の間で対立を緩和させるために出来た有名な決議案だったんですけども、日本では特に決議23-34を大事にして今日までそれを維持してきたんです。私達は自分達の高い倫理性を持って、個々のそれぞれの職業を通して社会に貢献をする、RI 会長さんは地域を育むとおっしゃっております。

こうした場合は実は、規定審議会で国際協議会で3人です、一人は日本人です、今度2012・13年度のRI 会長がほぼ決まっております埼玉県の中作治さんという方です、あとはスウェーデンの弁護士さんともう一人はレバノン系の実業家と3人が職業奉仕についてスピーチをしたんですね、去年まではそういうことはなかったそうです、ようやくここにきて国際ロータリーも、もう一辺過去を振り返って職業奉仕がいかに大事であるかということに気がついたんじゃないかと思えます。

ですから先ほどの例でいきますと、個人奉仕、職業奉仕、社会奉仕は区別はできますが、絶対引き離すことはできないんです。



最後に持続的な成果とか、持続性あるいは継続性を近年いわれますけども、私は学生の時に国文学を専攻している同

級生に、無理やり京都の東山の山の中へ連れて行かれたことがあります、そこは有名な『方丈記』という紀行文を書いた鴨長明の庵の跡だったんです、静かな山の中だったんですけども、そこで有名な『方丈記』が書かれたんです、すなわち『行く川の流れば絶えずして、しかも元の水にあらず』川の流れば絶えないと、しかし元の水ではないんだと、常に変化をしていくんだと、一瞬前の水は一瞬後の結果の原因だと、しかしそれとて瞬時に消えるんだと、しかし全体として持続的、継続的な一つの川の流れば変わらない、いつも同じように流れているし、同じようにどことなく流れていくんです。

私達もまったく同じなんです、ですから最後にもう一辺いわせてもらいますと、今はやりの長期計画だろうが、もう少し短い3年程度の中期計画だろうが、はたまた単年度の計画でも全てやった瞬間に消えてなくなるように見えるんですけど、現象としてはずっとついているんですね。そして継続的に川と同じように流れて行きます。

ですから私達は、自信を持って単年度計画であろうが、長期計画であろうが頑張って奉仕の理念を顕現するよう努力しましょう、今日はありがとうございました。



【謝 辞】

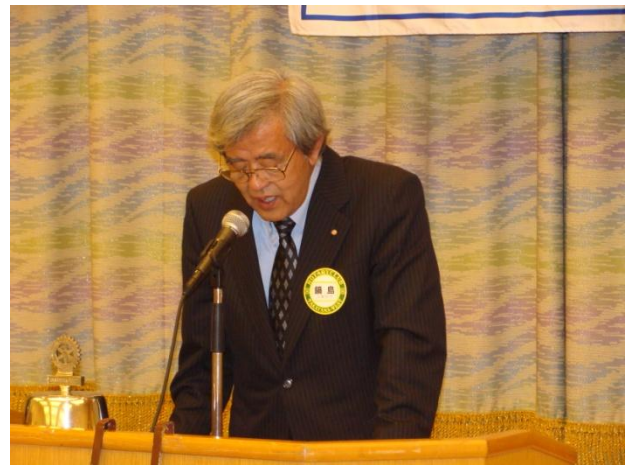
高山西ロータリークラブ

会長 鍋島 勝雄 様

本日は、第2630地区ガバナー桑月心様、地区代表幹事西野徹様、濃飛分区ガバナー補佐伊藤松寿様をはじめ、地区委員会委員長・委員、地区幹事をお迎えして、公式訪問例会を無事に終えることが出来有り難うございました。非常に厳しい現状の中で活動を生かして行くか課題の多い中、有意義な指導を頂き有り難うございました。

10月2日の我がクラブ主催のIMには、全員登録を戴き有り難うございます、有意義な大会を行いますのでご期待ください、又、10月23・24日の地区大会に向けてガバナーを始め、高山RCの皆様ご苦勞様です、大会が大成功するように3クラブが一体となり協力をさせて頂きたくことをお約束します。

任期満了まではまだまだ忙しい日々が続きますが、ご健康には充分留意され地区のためにご指導いただくことをお願いして甚だ簡単ではありますが、本日の御礼の挨拶とさせていただきます有り難うございました。



<ニコニコBOX>

本日はよろしくお祈いします。

国際ロータリー第2630地区

ガバナー 桑月 心 様
代表幹事 西野 徹 様

高山3クラブの皆様大変ご苦勞様です。よろしくお祈い致します。

ガバナー補佐 伊藤 松寿 様

本日は桑月ガバナー、お忙しい中ご来訪頂き誠にありがとうございます。よろしくご指導の程お祈い申し上げます。

高山RC会長 住 吉人 様
高山西RC会長 鍋島 勝雄 様
高山中央RC会長 清水 幸平